

消費生活相談 の現場から

消費生活センター（または消費者センター）は、行政が設けた消費生活上のトラブルを相談するところとして多くの方に認識されていますが、それを利用した新手の悪質サイトが堂々と宣伝されています。最近寄せられた相談事例から紹介します。

<事例>

パソコンでインターネット閲覧中に、「登録完了 料金を2日以内に払ってください」という画面が出てきた。

不当請求ではないかと思い、消費生活センターに相談しようと思ったが、夜間なので窓口などは開いていなかった。インターネットで検索してみたところ、「消費生活センター公式」というサイトが一番上に表示されたため、開いた。

「無料・即解決・〇〇弁護士事務所」という文字とフリーダイヤルが出てきたので、消費生活センターが弁護士を紹介しているのだと思い、電話をした。電話に出た担当者はテキパキとした口調で「当事務所で相手と交渉し、画面削除を遠隔操作し、二度と請求がないようにし

消費生活センターを装った 悪質サイトに注意！



ます。受任料は5万4千円です」と言った。「お願いします」と答えたものの、無料と案内していたはずなので、不審に思っている。

<アドバイス>

インターネットで「消費生活センター」と検索してみると、それ以外に「国民消費センター」「消費相談センター」などという名前がずらっと出てきます。その名称の下に小さく【広告】と表記されていますが、そのつもりで見ないと分かりません。聞いたことのある公的窓口のような名称で不当請求などで困っている人を誘い、儲けようという手口です。

不当請求画面は遠隔操作でなくても消去できます。あるいは無視すれば済むことが多いのです。公的な消費者相談窓口では、費用は一切かかりません。

問合せ 消費生活センター ☎ 495・6212（相談専用）



きよせ 地元学 キヨセ ケヤキ ロードギャラリー作品紹介その4

文字通りケヤキの木に囲まれているキヨセ ケヤキ ロードギャラリーですが、ケヤキ以外の木を見ることもできます。今回は、ギャラリーで見ることができる、ちょっと変わった「木」をご紹介します。

清瀬の風俗や郷土文化、伝統などを写真やイラストとともに紹介します。

問合せ 郷土博物館 ☎ 493・8585

①「四本の木」 1992年制作 ブロンズ／作者はさまざまな素材を駆使して、堅牢な形態感を表し、自然と交流する独特な空間を生み出している。



【作者紹介】

土谷武 (1926～2004)

1949年東京美術学校（現東京藝術大学）彫刻科を卒業。第6回中原悌二郎賞優秀賞、第9回平櫛田中賞、第21回中原悌二郎賞などを受賞。

②「青い樹」 1992年制作 ステンレス・スチール／制作意図（抜粋）―元気に満ちた幹が上部の花冠を支える。花冠の成長している部分は、樹々全体の青さを敬うかのごとく空間に広がっている。

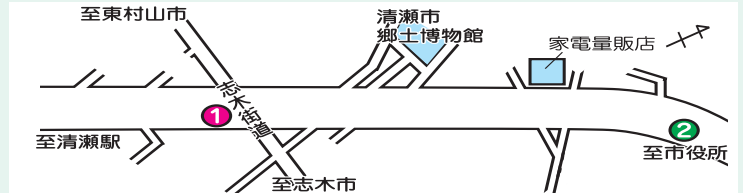


【作者紹介】

セバスチャン (1947～)

メキシコ国立自治大学造形美術学校に学ぶ。1974年メキシコ国立大学建築科基礎設計の教授となる。彫刻だけでなく、版画を含めて幅広く活躍している。メキシコ芸術院会員。

作品配置場所



地域の“チカラ” の向上プロジェクト

7月18日に、地域と清瀬高校が連携した防災イベント「七小円卓防災フェア in 清瀬高校」が開催されました。清瀬高校では一昨年より宿泊訓練を行っており、今年も防災マップの作成や応急救護、消防ポンプの操作などを学びました。

展示スペースでは前回ご紹介した清高生と地域の方々が「まち歩き」を行った様子の紹介や、「わたしたちの72時間サバイバル」「みんなで作ろう防災マップ」など地震発生時の行動マニュアルや震災直後に必要な生活情報のパネル展示、災害対策用プライベートルームの設置などを行いました。

学校が防災訓練を公開し、取り組みを地域の方々に知ってもらい、地域の方に積極的に参加していただくことで、地域の輪の広がりを感じることができました。また、非常時に「地域の力」となるよう日ごろからの備えが大切であることも学ぶことができた防災イベントとなりました。

次回の各校区の円卓会議は右記のとおりです。地域コミュニ

七小円卓防災フェア in 清瀬高校



防災マップや避難所一覧などのパネル展示



防災マップ作りに取り組む清高生

ティーに参加し、地域の防災問題などについて話し合いたいとお考えの方など、ぜひご参加ください。

また、まだ円卓会議が行われていない小学校区でも、円卓会議を立ち上げたいという方は下記までご連絡ください。

問合せ 企画課市民協働係 ☎ 497・1803

円卓会議の開催日程

芝小・四小＝9月15日(月)午後2時～、四中図書室

七小＝決定次第、市ホームページなどでお知らせいたします。

三小＝8月20日(水)午後6時～、竹丘地域市民センター

六小＝決定次第、市ホームページなどでお知らせいたします。

健康 ナビ

高齢化や食生活の欧米化などにより、日本で新たに大腸がんと診断される患者の数は年々増え、現在は年間約12万人となっています。しかし、大腸がんは自覚症状（便秘がひどくなる・便が細くなる・血便が出るなど）が出る前に早期発見できれば、100％近く治すことができます。

では、どうすれば早期で発見できるのでしょうか。まずは職場や市で行っている大腸がん検診を毎年受けることで、病変からのサインに気が付くことができます。

大腸がん検診では主に、便潜血検査を行います。この検査はスティック状の検査容器に便を採取し、提出するだけの簡単な検査です。大腸にがんやポリープなどがあると、便に血液が付着することがあり、その微量な血液を調べます。

ただし、検査結果が陽性となった場合は、医療機関で大腸内視鏡検査や注腸エックス線検査などの精密検査を行う必要があります。平成25年度の清瀬市大腸がん検診では2,031人が検

がん検診を受けよう ～気になる大腸がん～

査を受け、そのうち108人が要精密検査となりましたが、なかには精密検査を受けていない方もいるようです。精密検査を受けない場合は、がん検診の効果はなくなりますので、症状がないからと自己判断せずに、医療機関を受診してください。

なお、市の取り組みとして今年度は65歳以上の方のがん検診が無料になります。また、特定の年齢の方に無料クーポン券を配布しました。これを機にぜひがん検診を受けましょう。

◆胃・大腸がん検診（後期）受診者募集

対象 市に住民登録のある35歳以上の方。胃がん検診は各日定員40人（応募者多数の場合抽選）

場所 健康センター

費用 胃がん検診千円・大腸がん検診500円（65歳以上の方は無料。その他免除制度あり）

※実施日・申込み方法など詳しくは市報4月1日号健康特集号・7月15日号7面または下記へ。

問合せ 健康推進課健康推進係 ☎ 497・2075